

かみかすや・わだうち 上粕屋・和田内遺跡

伊勢原市No.206

調査期間 2019年9月2日～2020年3月31日

所在地 伊勢原市上粕屋

時代 近世、中世、奈良・平安、弥生、
縄文、旧石器

調査原因 一般国道 246 号（厚木秦野道路）
建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

遺跡位置 小田急小田原線伊勢原駅の北西約
3 kmの小谷戸崖裾



主な調査成果

和田内遺跡は、縄文海退期に形成され、その後埋没が進み、縄文時代後期に利用が開始されるようです。この頃、対岸の秋山台地上では集落が形成されていたと考えられ、関連については今後の検討課題となります。

次に人の営為が確認できるのは、弥生時代後期以降となります。今回の調査では、古墳時代前期の住居等が発見されました。この時期の痕跡は、和田内谷戸の入り口付近に集中するようです。発見された加工途中の木材からは、集落内で木材を板状に加工し、一次保管し、その後製品への加工をおこなっていた様子が推測されます。近隣の上粕屋・和田内下遺跡では、古墳時代の耕作跡と農耕具が発見されています。和田内に居を構え、農耕具を製作し、前面に広がる低地で耕作していた情景が浮かびます。



古墳時代全景（4区）



F10号住居 F11・15・16・19号土坑遺物出土状況



F11号土坑 板状加工材出土状況